

<作物別使用時期>

	作物名	元肥量(10a)	追肥		備考
			追肥時期、その他対応	使用量(10a)	
果菜類	トマト キュウリ ナス ピーマン シシトウ	30～45kg	徒長甚だしく、着花果不良の時にはジャットPK(粉)2袋(40kg)で対応する	30～45kg	徒長防止 花粉・花器の充実 細胞壁強化 増収
	メロン スイカ カボチャ	30～45kg	交配前に徒長甚だしい時にはジャットPK(粉)2袋(40kg)で対応する	30～45kg	徒長防止 花粉・花器の充実 着色・食味向上
	イチゴ	45～60kg	苗質、高温等による徒長対策は定植直後・通常は定植より20日後	30～45kg	徒長防止、増収 花芽分化条件の向上
葉菜類	ハクサイ キャベツ レタス	30～45kg	芯立ち期(最大葉が第7葉の頃)	30～45kg	結球促進 細胞壁強化
	ホウレン草 コマツナ	30～45kg	―――	―――	葉肉厚増 増収・日持ち向上
茎菜類	タマネギ 長ネギ	30～45kg	鱗茎肥大初期 土寄せ時2～3回	30～45kg	細胞壁強化 品質向上・増収 貯蔵養分増加・増収
	アスパラ		立茎礼肥え時、養分転流初期		
根菜類	ニンジン ダイコン	30～45kg	根がエンピツの太さの頃 根がチョークの太さの頃	30～45kg	細胞壁強化 品質向上 増収
	ゴボウ		9葉期頃		
花菜類	ブロッコリー カリフラワー	30～45kg	着蕾初期	30～45kg	花蕾肥大・増収
芋類	ジャガイモ サトイモ サツマイモ ナガイモ	30～45kg	着蕾期(子芋パチンコ玉大) 6葉期(子芋着生期) ツル長40cm頃(芋が親指大) 着蕾期	30～45kg	増収 芋揃い向上 品質・食味向上 体質強化
豆類	キヌサヤ スナップ インゲン エダマメ	30～45kg	豆類にはジャットPK(粒)を使用する 開花初め頃から2週間位に1回のみ	15～30kg	徒長防止 莢の充実増収 子実の増収
果樹	モモ・ナシ リンゴ サクランボ ブドウ カキ ミカン類	適期年4回 1樹毎の樹勢 生育経過を観 察して適量を 決定	①樹液流動開始期(萌芽1ヶ月前) ②生理的花芽分化期(夏至前・新梢停止期) ③糖度上昇期(収穫1ヶ月前) ④養分蓄積期 落葉果樹は落葉1ヶ月前 柑橘類は自発休眠期1ヶ月前 ◎日照、降雨量により量と回数増減	果樹には ジャットPK粉 が適す 1回施用量 2袋(40kg)	①萌芽勢強化 ②・当年果実の充実 ・生理的花芽分化促進 ・樹体生育転換促進 ③着色・糖度向上 ④樹体内養分充実
穀類	イネ	30～45kg	出穂35～40日前	15～30kg	稈の充実、倒伏防止 登熟・食味向上 増収・品質向上

取扱

製造・発売元

株式会社 **ジャット**

本社：〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場 4-2-4
TEL 06-6121-4300 FAX 06-6121-4302

札幌 仙台 さいたま 大阪 久留米

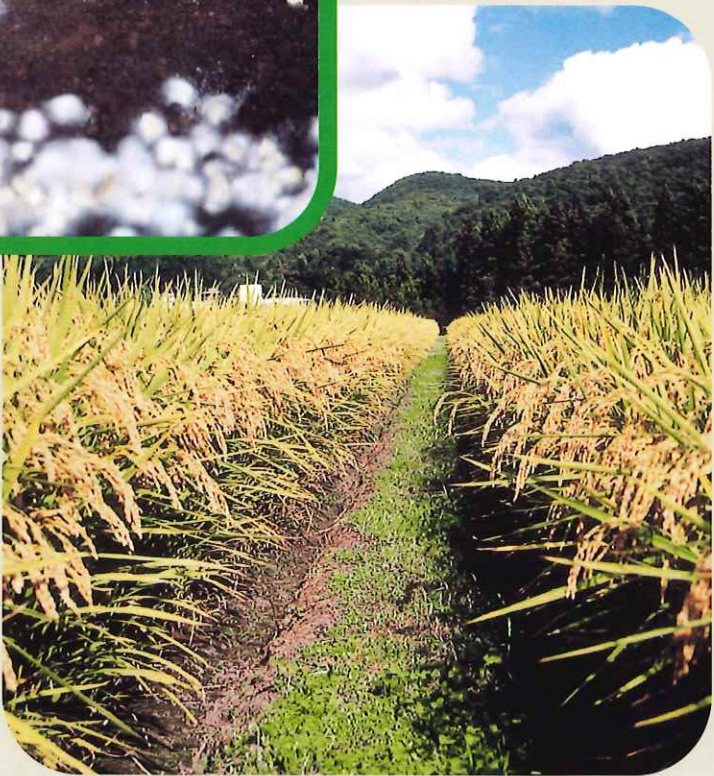


少量で効く！ 醗酵リン酸肥料

ジャットPKシリーズ



ジャットPK施肥後5日の菌糸の姿



あっても効かない やっても効かない どうしてあるのに効かない？ 沢山あるから入れなくてもいいの？ 過剰なら入れなくてもいいの？

火山灰だらけの日本の土壌

りん酸は、日本の土壌では土壌に固定されて効かなくなります

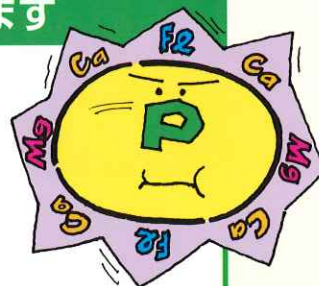
- 日本の農地は火山灰土壌が多くアルミニウムが大量に存在します。
- アルミニウムはりん酸を固定し効かなくします。
- りん酸を固定する指数をりん酸吸収係数といいます。
- りん酸吸収係数は500以下が適正とされますが、1000以上の土壌が多く中には2000以上の地帯も珍しくありません。
- 石灰の多投によるりん酸の肥効が低下した圃場も増えています。



4つの形のりん酸

固定されて効かないりん酸、根酸で溶ける「く溶性」と「可溶性」のりん酸、そして、あればすぐ効く「水溶性りん酸」の4つの形があります

- 土壌分析にある、「有効態りん酸」は即効性の「水溶性りん酸」だけではなく、植物の根酸の働きで溶解するとされる「く溶性りん酸」と「可溶性りん酸」も含まれます。
- 「有効態りん酸」の分析には希硫酸が試薬として使用され、即吸収できるりん酸だけでなく、吸収するまでに時間が必要なりん酸との合計数値が出て来ます。
- 「有効態りん酸」が充分ある畑、りん酸の肥効が悪い場合には元肥に溶解を助ける「ランドパワー」を追肥には「ランドライフ」や「天地十万年」の灌水をお奨めしております。



微生物の力を借りたりん酸肥料 それが「ジャットPK」です

- 微生物の力を借りて少量で効果のある肥料が「ジャットPK (粉)」です。
- 粉状のりん酸肥料は保管中に固結しますが、「ジャットPK (粉)」は固結しません。
- 非常に効果が高いですから、1回使用量は30～40kg/10aです。通常のリん酸肥料と同じ量の使用では効き過ぎる事があります。
- 微生物の力を利用したりん酸肥料がジャットPKシリーズです。この「ジャットPK (粉)」肥料を農家の方が自作できるキット「バイオPK」も販売しております。



画期的リン酸肥料 ジャットPKシリーズ

ジャットPK(粉)

0-12-10 (粉状)

20kg

ジャットPK(粒)

1-13-10 (タブレット)

15kg

ジャットPKマグ

2-12-8-4 (タブレット)

15kg



ジャットPKシリーズの加里原料には塩化加里を使用しております。施肥の常識として、畑には塩化加里は禁物とされていますが、これは、多量施用で濃度障害が出る為です。適量の施用ならば障害は出ません。塩化加里は必須要素である塩素の供給源として必要です。又、塩化加里はりん酸の吸収と肥効を促進する働きがありますから、その面からも必要です。

